



本日の
プログラム

年男の弁(2)

会長年頭挨拶 井上善博 会長

明けましておめでとうございます。
2023年は十二支で兎年です。金融で“寅千里を走り、卯跳ねる”という格言があります。どんな年をイメージできるでしょうか。国際通貨基金が2022年10月に公表した世界経済の見通しでは、アメリカを始め世界の三分の一以上の国と地域で、景気後退に陥るとの懸念が発表されています。経済のグローバル化にストップがかかり、社会の分断や困り込みが起きております。この時代だからこそ117年の歴史を持ち発展してきたロータリーの考え方が活きると考えております。私たちは、例会を通じ職業倫理の高揚を学び、様々な考え方に接し、自らの善意を高め、人脈をつくり、一人一人の職業を通じて社会にいかにか奉仕するかという職業奉仕を基本に実践活動をしなが、仲間とともに行動しております。ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことです。ロータリーの奉仕の理念を表す標語があります。“超我の奉仕”そして“他人に最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる”その行動規範は『四つのテスト』にあります。本年3月10日に、第4・第5グループのIMが3年ぶりに開催されます。テーマは、“あなたにとってロータリーとは”副題に“ロータリーの価値を再発見する”を掲げています。是非、会員の皆さまにも、改めてご自身とロータリーについて考える機会をつくっていただきたいと思います。

会員の皆様ご家族はじめ、関わる全ての皆さまのご健勝と幸多き一年であることを願って、新年のご挨拶とさせていただきます。



年男の弁(1)

田中新一 会員

私は昭和14年に満州国 奉天(ほうてん)市で生まれ、小学校進学時に終戦を迎えました。終戦直前に母を病気で亡くし、父は終戦後シベリアへ行ったため、私は引き揚げ船で舞鶴港を経由し、父親の故郷の奈良県にある祖母の家へ引き揚げて来ました。幼少期は病弱であり、幾多の病気を経験し苦勞致しましたが、小学校・中学校・高等学校を無事卒業しその後、昼間は工場勤務をしながら明治大学の夜学部に進学致しました。大学3年生時、公認会計士制度を知り、公認会計士を目指して猛勉強をして合格致しました。当初、私の先生が開業している東京の会計事務所に入所予定でしたが、知人が札幌の会計事務所を紹介してくれたご縁があり、今日まで札幌で仕事をしております。勤務した事務所は有

力な事務所であり、数多く北海道の優良企業の財務・会計に携わることができ大変勉強になりました。たくさんの経験を経て実力がつき、北海道や札幌市の外部監査人として道内の企業や炭鉱を巡り監査も致しました。釧路市の太平洋炭鉱では海底にある採掘現場に入る貴重な経験は思い出深いものとなりました。振り返ってみると私の人生は大変恵まれておりました。84歳の年男まで生きてこられたことは、とても嬉しく、また有難く思っております。ロータリーの仲間との友情やご厚意の中で『運』が向いていたのだと思ひ、今日この壇上に立てていることはとても幸せです。病弱だった幼少期から、本日まで生きてこられたことは信じられない思ひです。現在も色々なところからお声かけいただいて楽しくすごしております。夏場は毎週ゴルフを楽しみ、この年齢になっても充実した日々をおくることができ、札幌東RCの皆さんとお話や食事、ゴルフを一緒にして、ロータリーの友情を深められていることに感謝しております。これからの人生も楽しく生きていきたいと思っております。



藤田美津夫会員

私は昭和26年卯年の8月に生まれました。

当クラブに入会したのが平成4年(41歳)で、入会后三回目の年男になります。前回の60歳の時に12年後の自分を想像することは困難でした。日々同じように生活をして、いつの間にか72歳を迎えたというのが率直な感想です。昨年の夏、白内障になり両眼とも水晶体再建術を受け老化を痛感しております。私が生まれた昭和26年はサンフランシスコ講和条約と日米安全保障条約の調印がされ、日本は同年にユネスコに加盟し、テレビの実況放送実験が行われ、第一回

NHK紅白歌合戦が開催されました。昭和30年代から高度経済成長期に入り、昭和43年にはGDPが世界第二位でした。昭和46年にドルショック、昭和48年に石油危機があり、日本は低成長時代に移っていきました。昭和55年ころから米国との貿易摩擦が問題視され、昭和61年ころからバブル経済に突入し、平成3年にバブルが崩壊し、その後おおよそ30年間にわたりデフレ対策に苦しむこととなります。平成22年にはGDP第二位の座を中国に奪われています。平成21年には初の政権交代、その三年後の平成24年には再度の政権交代が行われました。戦後日本は激動の歴史を歩み、私は日本が戦後の復興から高度経済成長に向かう時期に生まれ、直接戦火にまみえることのない平和な時代に生きることができ本当に幸せです。現在日本は、国内外ともに困難な状況に直面し大きな岐路に立っております。安全保障環境の変化を踏まえた平和安全法制の整備や防衛力の増強、日本がエネルギー資源に乏しいことを直視した原子力の利用へ回帰など、現実的な政策の選択が行われたことは賢明であったと思ひます。しかし、日本が抱えている膨大な国債発行残高の問題や、急速な少子高齢化の進行についての解決策はなかなか見えてこない現状が大変心配です。私が84歳の年男となる12年後、私自身がどのようになっているのか想像ができませんが、私の孫たちの時代に、日本がこの困難な問題を克服し、社会や経済が安定して、日本が先進国の一員として世界から尊敬され、信頼される国であってほしいです。私は次の年男となるまでの12年間、健康に留意し、自分に与えられた仕事に精励し、日本の行く末を見届けたいと思っております。

